

## 寒玉系キャベツの4、5月端境期穫りを可能にするは種期と被覆方法

寒玉系キャベツを4、5月端境期に収穫するためには、は種時期を12月上旬から11月下旬にすることにより、収穫時期が4～17日早くなり、被覆方法では、マルチ+トンネル栽培が4月下旬収穫と最も早く、続いてマルチ+べた掛け栽培、マルチ栽培、裸地栽培の順となり、品種との組み合わせにより、4月下旬から6月上旬の収穫が可能となった。

### 内容

レタス収穫後のマルチ、トンネルを利用してキャベツを11月19日と12月1日には種し、それぞれ1月16日と2月12日に定植した。

は種期の違いでは、12月は種に比べ11月は種では収穫時期が4～17日早くなった(表)。

被覆方法の違いでは11月は種の「春空」で、マルチ+トンネル区が4月29日から最も早く、マルチ+べた掛け区では5月6日、マルチ区では5月11日、裸地区では5月22日の収穫となった(図)。結球重は、マルチ+トンネル区の11月は種を除いて、

ほぼ1.5kg以上が確保できた。球の詰まり具合(球緊度)はマルチ+トンネル区で緩く、収穫時期が遅くなるほど詰まりがよくなった(表・写真)。は種期と被覆の組み合わせにより4、5月端境期穫りが可能となる。

### 今後の方針

4、5月の端境期の寒玉系キャベツは、単価も安定していることから、新たな作型として普及を進める。

中野 伸一(淡路 農業部)  
(問い合わせ先 電話:0799-42-4880)

播種期・被覆方法の違いがキャベツの収穫時期・結球特性に及ぼす影響

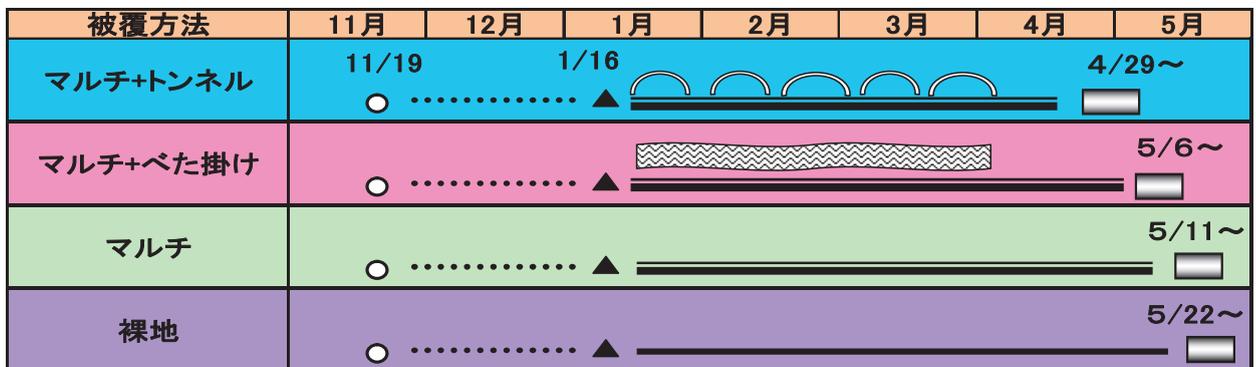
被覆方法	品種名	は種期	収穫日 (月/日)	結球重 (g)	球緊度*
マルチ+トンネル	春空	11月	4/29	1,305	0.57
		12月	5/12	1,723	0.65
	SE	11月	5/9	1,319	0.57
		12月	5/26	2,087	0.69
マルチ+べた掛け	春空	11月	5/6	1,674	0.60
		12月	5/12	1,607	0.60
	SE	11月	5/12	1,439	0.56
		12月	5/26	1,934	0.75
マルチ	春空	11月	5/11	1,491	0.53
		12月	5/23	1,687	0.64
	SE	11月	5/26	1,766	0.62
		12月	6/2	1,713	0.72
裸地	春空	11月	5/22	1,565	0.60
		12月	5/26	1,703	0.73
	SE	11月	6/2	1,579	0.70
		12月	6/8	1,563	0.71

注) いずれの被覆方法・品種とも花芽分化はみられなかった。

\* 球緊度=結球重/球体積



「春空」の収穫球



○ :は種 ▲ :定植 [トンネル] :トンネル [べた掛け] :べた掛け [ ] :収穫

被覆の違いによるキャベツの収穫期(11月は種・「春空」)

トンネル・べた掛け:定植後から被覆しそれぞれ4月6日・4月2日に除去、畝幅:130cm、株間:35cm(2条植え)、栽植密度:4400株/10a  
施肥方法:定植時に複合硝燐加安(15-10-10)22gを各株元に穴肥施用、定植50日頃に同量を株間に穴肥施肥(但し、マルチ+トンネル区以外は条間を割り条状に施用)、定植80日頃に窒素加里化成(18-0-18)40kg/10a谷施用